

第 253 回 日本経営倫理学会・理念哲学研究部会の議事録

部会長 村山元理

日時 令和 2 年 9 月 28 日 (月) 18:00-20:20

参加者：宇佐神、古山、長塚（視聴のみ）、望月、青木、村山
欠席届：新川、

オンライン会議の記録ズミ

研究発表

「我が国における製薬企業と患者の価値共創～Patient & Public Involvement と患者中心の医薬品開発」 吉田智美 添付資料あり

医療パラダイムの変遷という大きな枠組みのもと、製薬企業の薬品開発に患者団体がかかわる先進的なイギリスの事例を紹介する。その際、日本におけるその取り組みの在り方について議論した。医療社会学、生命倫理、製薬会社の企業倫理など複合的な視野が絡まっていた。

- ・ 医者から処方された薬は過剰な面があり、飲まない。過剰な医療への批判。
- ・ 製薬会社がもうかるような処方がある。

村山「モーリシャス沖の重油流出事故－日本側の対応を検討」 添付資料

賠償責任のない商船三井の基金設立にむけた 10 億円の寄付など日本側の対応についての妥当性を考察する。

株価は上昇したことが分かり、市場は高く評価したことがわかった。

商船三井は当初は事故について長鋪汽船に任せており、基金の表明の時期が遅かった。

大会社として賠償責務が直接なかったため、この時期での対応は内部で議論があったはずであり、妥当である。

今後の予定（毎月第 4 月曜日）

11 月 23 日 (月) 勤労感謝の日 開催よいか？

18:00-20:00 オンライン会議 (事前に URL を送付)